

平成 29 年（2017 年）11 月 8 日

広島市都市計画審議会
立地適正化計画専門部会（第 6 回）
会 議 要 旨

事 務 局

都市整備局都市計画課

広島市都市計画審議会立地適正化計画専門部会（第6回） 会議要旨

1 開催日時

平成29年（2017年）11月8日 午前9時25分

2 開催場所

広島市役所議会棟3階第一委員会室

3 出席委員

渡邊部会長、塚井副部会長、茗荷委員、渡部委員

4 傍聴人

一般 11名

報道関係 1社

5 閉会

午前11時20分

1 誘導施策について

【交通結節点（拠点）について】

（塚井副部長）

- ホテルのように国内外から来る人の利用が多いと思われる施設は、都心部の幹線道路沿道だけでなく、横川などの交通結節点の周辺に誘導することを考えても良いのではないか。

（渡邊部長）

- たとえば、西広島駅周辺（地域拠点）については、（アストラムラインの延伸など）これから交通条件がかなり変わってくると思うので、その状況を踏まえながら、必要に応じて拠点の位置付けの見直しについても検討する必要があるのではないか。

【容積率緩和型の地区計画について】

（渡部委員）

- 容積率緩和型の地区計画については、紙屋町から八丁堀にかけての中心部における、ホテルやオフィスへの投資を呼び込むことができるので、早期の実現を期待したい。また、施策の効果を見極めた上で、さらに対象地区の拡大について検討していただきたい。

【集合住宅の建替えについて】

（塚井副部長）

- 老朽化した集合住宅は、居住者の合意が得られず更新が進まないことも考えられるので、居住を維持する上で、こうした建物をどのように更新させていくかも重要になってくると思う。

（渡邊部長）

- 集合住宅の建替え問題は、立地適正化計画の主旨を踏まえて、住宅マスタープランなどの中での検討が必要だと思う。

【その他】

(茗荷委員)

- シティホテルやコンベンション施設は、日本人に限らず外国人も利用するので、多言語の通訳に対応することができる施設の誘導も必要ではないか。

2 計画の評価・検証の指標について

(塚井副部長)

- 立地適正化計画が目指す集約型都市構造は、都市機能がどのように立地するかが大切であり、評価・検証の際には、施設数だけでなく、誘導施設の立地場所などを踏まえた分析も補完的に行っていただきたい。

(渡邊部長) (茗荷委員)

- 期待される効果（市民意識調査）については、可能であれば、全体の母数や属性（年齢、住所など）を踏まえた分析についても検討していただきたい。

(渡部委員)

- 高次都市機能の誘導に関する評価・検証の指標がないので、高次都市機能誘導区域における誘導施設に対する指標を設定しても良いのではないか。